

《2025年3月（通算341回） 限定サロン報告》

U-18FLCC の 10 周年に向けて

－何ができるか－

【日時】2025年3月28日（金）19:00～21:00

⇒ 終了後は「はなの舞」茗荷谷店で懇親会（12名）～23:00ごろ

【会場】筑波大学附属高高校会議室&オンライン（Zoom）

【テーマ】U-18FLCC の 10 周年に向けて－何ができるか

【話題提供】中塚義実、土谷享、本多克己 ほかに参加者による意見交換

【参加者（13名）】◎はNPO会員、○は会員外のファミリー、無印はファミリー外
注）（ ）内は個人の属性（所属等）とNPOサロン2002における役職

◆筑波大学附属高校での対面（9名）

◎石原俊秀（パルカ）、○岸卓巨（A-Goal）、○小池正通（Esperanca）、○小針昇平（筑波大学附属中保体科→3/31まで）、○小松俊介（筑波大学附属高校美術科）、○鈴木崇正（NEC ビジネスインテリジェンス）、○徳田仁（セリエ）、◎中塚義実（筑波大学附属高校保体科←3/31まで/理事長）、◎本郷由希（理事）

◆オンライン（Zoom）（4名）

◎嶋崎雅規（国際武道大学：千葉・勝浦から）、◎土谷享（KOSUGE1-16：高知から/理事）、◎本多克己（シックス：神戸から/副理事長）、ガスパール・クエンツ（映画監督：フランスから）

【懇親会からの参加者（4名）】

宇都宮徹壺、田島璃子、◎関秀忠（理事）、○福島成人

【報告書作成】

中塚義実

【キーワード】U-18フットサル、U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ、U-18FLCC、10周年、記録、映像、書籍、ドキュメンタリー、プロモーション、中塚義実、本多克己、土谷享

<目次>

I. U-18フットサルからみえるユース年代のスポーツ環境

1. U-18フットサルのあゆみとサロン2002の関わり（中塚）
2. 第9回U-18フットサルリーグチャンピオンズカップのようす（中塚）
3. 各地域リーグの現状（本多）

II. 10周年に向けて－何ができるか

1. 日本財団申請事業の概要－ダメにはなったが…（土谷）
2. ではどうするか…（全体での意見交換）

I. U-18 フットサルからみえるユース年代のスポーツ環境

1. U-18 フットサルのあゆみとサロン 2002 の関わり (中塚)

右スライドは、2017年のU-18フットサルリーグチャンピオンズカップ (FLCC) 創設時に、これまでのあゆみを本多さんがまとめたものである。東京都サッカー協会主催の公認大会が2001年度に始まったとき、日本におけるU-18フットサルの本格的なスタートと言える。

全国大会創設の機運を受けて2012年3月にU-18フットサルトーナメントが開催された。法人化前のサロン2002が、開催地の愛知県フットサル連盟とともに運営を担った。2013年3月の同大会ではサロン2002公開シンポジウム「U-18フットサルを語ろう！」が開かれ、U-18の男子フットサルの今後について意見交換した (ちなみに2024年8月の公開シンポジウムは「U-18女子フットサルを語ろう！」であった)。このシンポジウムが、日本サッカー協会 (JFA) 主催の全国大会と日本フットサル連盟 (JFF) 主催の選抜大会につながる。

JFA主催の「全日本ユース (U-18) フットサル選手権大会」は、単独チームの日本一を決める大会である。はじめは高校サッカー部が優勢であったが、いまはFリーグ下部組織が優勝を重ねている。

JFF主催の選抜大会は「GAVICカップ」の名称で2018年まで続いたが、その後JFF主催での開催は中断。2023年と24年の3月に兵庫県フットサル連盟主催で再開し、JFF主催大会として再開される見通しだが、不透明である。

単独チームの全国大会と選抜大会が整えられた段階で、次に取り組むべきは各地域でのリーグ環境の整備である。協会や連盟の主催大会ができればよいのだが地域によって事情は異なり、全国一律の展開は難しく、協会や連盟が主催できる段階にはない。このような状況下で、

「日常的なリーグ環境の整備」と「U-18

2001年 東京都で公式大会開催
2007年 東京都と神奈川県でリーグ設立 (東京はプレリーグ)。U-18フットサルが活性化。
2010年 ホンダカップでU-18カテゴリーを新設 (優勝は名古屋オーシャンズU-18)
2012年 **U-18フットサルトーナメント 2012**
9地域の代表による全国規模の大会開催 (優勝は名古屋オーシャンズU-18)
2013年 第2回大会会場にてサロン2002公開シンポジウム「U-18フットサルを語ろう！」を開催
2014年 JFA主催の「第1回全日本ユース (U-18) フットサル大会」
2015年 U-18フットサルトーナメントを継承し、主催：日本フットサル連盟 共催：サロン2002で「ユースフットサル選抜トーナメント」を開催
2017年 サロン2002主催「U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ」を開催
この大会を機に各地にU-18リーグが整備され、日常的にフットサルを楽しめる環境が整備されていくことを願う。



JFA全日本ユース(U-18)フットサル選手権大会

- ①2014年 聖和学園FC (宮城) / 大田区総合体育館、墨田区総合体育館
 - ②2015年 岡山県作陽高校 (岡山) / ゼビオアリーナ、仙台市体育館
 - ③2016年 帝京長岡高等学校 (新潟) / ゼビオアリーナ、仙台市体育館
 - ④2017年 矢板中央高等学校 (栃木) / ゼビオアリーナ、仙台市体育館
 - ⑤2018年 帝京長岡高等学校 (新潟) / ゼビオアリーナ、カメイアリーナ仙台
 - ⑥2019年 ベスカドーラ町田U-18 (東京) / 浜松アリーナ
 - ⑦2020年 中止
 - ⑧2021年 京都共栄学園高校 (京都) / 京都市体育館
 - ⑨2022年 ベスカドーラ町田U-18 (東京)・遊学館高校 (石川) / 三重県サオリーナ
 - ⑩2023年 フウガドールすみだファルコンズ (東京) / 浜松アリーナ
 - ⑪2024年 フウガドールすみだファルコンズ (東京) / 浜松アリーナ
- ※年/優勝チーム/会場



ユースフットサル選抜トーナメント

- 2012年に「U-18フットサルトーナメント」として創設。
2015年からは「GAVIC CUP」に名称を変更し、一般財団法人日本フットサル連盟 (JFF) 主催、サロン2002共催 (2017年まで) で、全国9地域から選抜された12チームで開催。2018年度を最後にJFFが外れて開催されず。
2012年 名古屋オーシャンズU-18 (愛知) / オーシャンアリーナ
2013年 瀬戸内高校 (広島) / オーシャンアリーナ
2014年 幕張総合高校 (千葉) / 駒沢体育館
2015年 愛知県選抜U-18 / 墨田区総合体育館
2016年 U-18新潟県選抜 / 墨田区総合体育館
2017年 U-18新潟県選抜 / 墨田区総合体育館
2018年 U-18神奈川県選抜 / 和歌山ビッグホエール
2023年3月に兵庫県フットサル連盟 (FF) 主催で開催。U-18愛知県選抜が優勝
2024年3月も兵庫FF主催。静岡県U-18選抜が優勝 (ともにグリーンアリーナ神戸)
2025年3月は和歌山県?! (開催されず) その先は…?

年代のレベルアップ」という二つの目的を掲げて始まったのがU-18フットサルリーグチャンピオンズカップである。totoの助成を受け、第1回は静岡県、第2回は愛知県、第3回からは長野県で開催され、いまに至る。

いずれは協会や連盟の主催大会になることを願っているが、それまではNPO法人サロン2002が責任を持って主催する。開催地域のフットサル連盟や地元自治体、関係する諸団体と連携しながらこの大会を育てるとともに、この大会をひとつのきっかけとして、各地域のU-18リーグ環境の整備を目指している。

2. 第9回U-18フットサルリーグチャンピオンズカップのようす（中塚）

9回目となった今大会は、2025年1月11日（土）～13日（月祝）の3日間、千曲市庁舎に隣接する「ことぶきアリーナ千曲」で開かれた。

全国から集まった16チームを4チームずつ4グループに分けて総当たり戦。グループ首位が最終日に準決勝。そこに残らなかったチームも交流戦があるので、いずれのチームも3日間ゲームが楽しめるようになっている。

開催期間を3日間としたのは第8回大会からである。試合数が増え、運営の負担は増えたが、今回からは長野県の審判員だけでなく、出場チームから帯同審判を求め、結果的に審判間の交流の機会となった。また、初日と二日目には全チームがそろうタイミングでイベントを実施。初日は千曲市長の挨拶に続いて出場チームからの90秒コメント、二日目は千曲市の文化紹介として今年はチアリーディングのパフォーマンスがあった。二日目の夜には指導者懇親会もあり、ただ競い合うだけでなく、互いの交流や千曲市との連携を図りながらこの大会を育てている。

U-18 フットサルリーグ チャンピオンズカップ			
第1回	2017年 1月6日(土)、7日(日)	エコパアリーナ（静岡県）	8チーム
優勝：	HeroFC U18F（静岡県）		
第2回	2018年 1月6日(土)、7日(日)	武田パオアリーナ（愛知県）	12チーム
優勝：	SANTOS FC18（愛知県）		
第3回	2019年 1月5日(土)、6日(日)	ことぶきアリーナ千曲（長野県）	12チーム
優勝：	京都橘高等学校（京都府）		
第4回	2020年 1月4日(土)、5日(日)	ことぶきアリーナ千曲（長野県）	16チーム
優勝：	シュライカー大阪 U-18（大阪府）		
第5回	2021年 1月9日(土)、10日(日)	ことぶきアリーナ千曲（長野県）	16チーム
優勝：	ペスカドーラ町田U-18（東京都）		
第6回	2022年 1月8日(土)、9日(日)	ことぶきアリーナ千曲（長野県）	16チーム
優勝：	フウガドールすみだファルコンズ（東京都）		
第7回	2023年 1月7日(土)、8日(日)	ことぶきアリーナ千曲（長野県）	16チーム
優勝：	フウガドールすみだファルコンズ（東京都）		
第8回	2024年 1月6日(土)～8日(日)	ことぶきアリーナ千曲（長野県）	16チーム
優勝：	フウガドールすみだファルコンズ（東京都）		
第9回	2025年 1月11日(土)～13日(日)	ことぶきアリーナ千曲（長野県）	16チーム
優勝：	フウガドールすみだファルコンズ（東京都）		

第9回U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ

Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
1 東豊レイコスFC フットサル部U-18（長野県）	1 フウガドールすみだ ファルコンズ（東京都）	1 徳島ヴォルティーズフットサル クラブ U-18（徳島県）	1 ACF PISCAROLA 聖蹟09-18 （東京都）
2 富山県立中央高等学校 （富山）	2 VALDIZZI（北海道）	2 日本経済大学 フットサル部（徳島）	2 宇二橋工業高校（富山）
3 名古屋オーシャンズU-18（愛知県）	3 パルテオール東野 ユルセーロ（千葉県）	3 京都市立西宮サッカー部 （徳島）	3 FRYBA FUTSAL 立降 0-18（福岡）
4 gart12000 0-18（徳島）	4 豊野	4 東海大学附属高等学校 フットサル部（徳島）	4 横浜ハローレフットボールクラブ 0-18（東京都）

北海道、関東、埼玉、東京(2)、神奈川、千葉、長野、富山(2)、静岡(2)、愛知、京都、兵庫、熊本

宮城、大阪、福岡は、事前エントリーはあったが出場できず

大会最終日(1月13日)

		A ピッチ				B ピッチ				
1/13	交流戦	9:00	25	A4位	-	B4位	25	C4位	-	D4位
	準決勝	10:30	27	A1位	-	B1位	28	C1位	-	D1位
	交流戦	12:00	29	A3位	-	B3位	30	C3位	-	D3位
	交流戦	13:30	31	A2位	-	B2位	32	C2位	-	D2位
合計		15:00	33	B20勝		B20勝				

日付	時刻	A ピッチ				B ピッチ				
		対戦	対戦	対戦	対戦	対戦	対戦	対戦	対戦	
1/11	10:00	1 東豊レイコスFC フットサル部U-18（長野県）	20-0	2 富山県立中央高等学校 （富山）	3 名古屋オーシャンズU-18（愛知県）	0-0	4 gart12000 0-18（徳島）	5 徳島ヴォルティーズフットサル クラブ U-18（徳島県）	6 1-0	7 豊野
	11:30	3 フウガドールすみだ ファルコンズ（東京都）	0-0	8 VALDIZZI（北海道）	4 パルテオール東野 ユルセーロ（千葉県）	1-0	9 豊野	10 東海大学附属高等学校 フットサル部（徳島）	11 東海大学附属高等学校 フットサル部（徳島）	
	13:00	5 徳島ヴォルティーズフットサル クラブ U-18（徳島県）	11-0	6 日本経済大学 フットサル部（徳島）	6 京都市立西宮サッカー部 （徳島）	11-0	7 豊野	8 東海大学附属高等学校 フットサル部（徳島）	9 東海大学附属高等学校 フットサル部（徳島）	
	14:00 イベント① 観客セレモニー/各チーム紹介									
	15:00	7 ACF PISCAROLA 聖蹟09-18 （東京都）	10-0	8 宇二橋工業高校（富山）	9 FRYBA FUTSAL 立降 0-18（福岡）	0-0	10 横浜ハローレフットボールクラブ 0-18（東京都）	11 宇二橋工業高校（富山）	12 宇二橋工業高校（富山）	
	16:30	9 東豊レイコスFC フットサル部U-18（長野県）	3-0	10 gart12000 0-18（徳島）	11 富山県立中央高等学校 （富山）	0-0	12 名古屋オーシャンズU-18（愛知県）	13 名古屋オーシャンズU-18（愛知県）	14 名古屋オーシャンズU-18（愛知県）	
	18:00	11 フウガドールすみだ ファルコンズ（東京都）	3-0	12 豊野	13 VALDIZZI（北海道）	0-0	14 パルテオール東野 ユルセーロ（千葉県）	15 パルテオール東野 ユルセーロ（千葉県）	16 パルテオール東野 ユルセーロ（千葉県）	
	9:00	13 徳島ヴォルティーズフットサル クラブ U-18（徳島県）	0-0	14 東海大学附属高等学校 フットサル部（徳島）	15 京都市立西宮サッカー部 （徳島）	11-0	16 京都市立西宮サッカー部 （徳島）	17 京都市立西宮サッカー部 （徳島）	18 京都市立西宮サッカー部 （徳島）	
	10:30	15 ACF PISCAROLA 聖蹟09-18 （東京都）	11-0	16 横浜ハローレフットボールクラブ 0-18（東京都）	17 宇二橋工業高校（富山）	0-0	18 宇二橋工業高校（富山）	19 FRYBA FUTSAL 立降 0-18（福岡）	20 FRYBA FUTSAL 立降 0-18（福岡）	
	12:00	17 名古屋オーシャンズU-18（愛知県）	1-0	18 東豊レイコスFC フットサル部U-18（長野県）	19 gart12000 0-18（徳島）	0-0	20 東豊レイコスFC フットサル部U-18（長野県）	21 東豊レイコスFC フットサル部U-18（長野県）	22 東豊レイコスFC フットサル部U-18（長野県）	
	1/12									
13:00 イベント② 千曲市の文化紹介（チアリーディング等）										
14:00	19 パルテオール東野 ユルセーロ（千葉県）	1-0	20 フウガドールすみだ ファルコンズ（東京都）	21 豊野	0-0	22 VALDIZZI（北海道）	23 VALDIZZI（北海道）	24 VALDIZZI（北海道）	25 VALDIZZI（北海道）	
15:30	21 京都市立西宮サッカー部 （徳島）	1-0	22 徳島ヴォルティーズフットサル クラブ U-18（徳島県）	23 東海大学附属高等学校 フットサル部（徳島）	0-0	24 東海大学附属高等学校 フットサル部（徳島）	25 東海大学附属高等学校 フットサル部（徳島）	26 東海大学附属高等学校 フットサル部（徳島）	27 東海大学附属高等学校 フットサル部（徳島）	
17:00	23 FRYBA FUTSAL 立降 0-18（福岡）	0-0	24 ACF PISCAROLA 聖蹟09-18 （東京都）	25 宇二橋工業高校（富山）	0-0	26 横浜ハローレフットボールクラブ 0-18（東京都）	27 宇二橋工業高校（富山）	28 宇二橋工業高校（富山）	29 宇二橋工業高校（富山）	

写真で大会のようすを振り返ってみたい。

初日の朝は、主催するNPOサロン2002と主管する長野県フットサル連盟・長野県サッカー協会で武水別神社へ公式参拝した。成功祈願と関係者の健康・安全を祈念したこの社は、川中島合戦の緒戦である「八幡の戦い」のすぐ近くで、武田信玄も上杉謙信もお参りしたという由緒ある神社である。

その間も「ことぶきアリーナ千曲」では試合の準備が着々と進められている。長野県フットサル連盟、U-18リーグ関係者は前日夕方から準備をはじめ、10時から第1試合が始まった。



会場に来られない方へ向けての動画配信サービスはコロナ禍にはじまり、今回も行った（左下）。LANケーブルが使えるようになり、画質は劇的に改善された。

また今回は、長野県在住のドキュメンタリー映画監督、ガスパール・クエンツ氏に依頼し、大会のようすをプロモーション映像にまとめることに取り組んだ。大会後に完成した5分間の映像は、YouTubeで誰にでも見られるようになっている（右下）。

大会初日のイベント①は、小川修一市長の挨拶に続き、各チームから持ち時間90秒のチーム紹介・リーグ紹介があった。チームや地域の個性が見られて面白い。

2日目のイベント②「千曲市の文化紹介」は、昨年度は地元温泉組合による「冠着太鼓」の披露であったが、今年は今中高校生のチアリーディングチーム「cue'Anz（キューティアンズ）」のパフォーマンスであった。全国大会で入賞し、バスケやフットサルのトップリーグでも会場を盛り上げる彼女たちのパフォーマンスは、会場に華やかな雰囲気をもたらした。





地元新聞やテレビでも取り上げられたこの大会は、U-18年代のトップレベルが集まる大会であり、注目度も高い。会場には日本代表監督の高橋健介氏のすがたもみえる。高橋氏は指導者懇親会にも参加して下さった。

U-18リーグの先進地域である関東勢（東京、神奈川）と静岡が今大会のベスト4を占めた。そして決勝は東京同士の対戦となり、フウガドールすみだファルコンズが優勝。大会4連覇を成し遂げた。

決勝は今年も福角有紘氏（多摩大学）の解説で配信された。

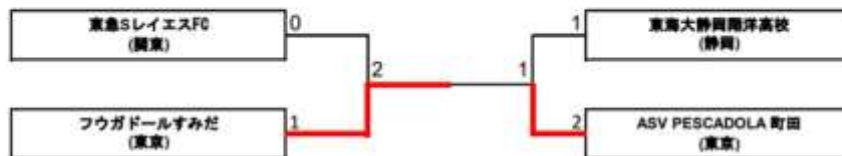
第9回U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ

Aグループ	1	2	3	4	勝点	勝	引	敗	得点	失点	得失点
1 東急SレイエスFC	-	5-0	3-1	13-0	9	3	0	0	21	1	20
2 伏木高校	0-5	-	0-2	2-4	0	0	0	3	2	11	-9
3 名古屋オーシャンズ	1-3	2-0	-	4-3	6	2	0	1	7	6	1
4 gatt2008	0-13	4-2	3-4	-	3	1	0	2	7	19	-12

Bグループ	1	2	3	4	勝点	勝	引	敗	得点	失点	得失点
1 フウガドールすみだ	-	8-1	4-1	10-1	9	3	0	0	22	3	19
2 VALIENTE	1-8	-	3-11	4-2	3	1	0	2	8	21	-13
3 パルドラール浦安	1-4	11-3	-	5-0	6	2	0	1	17	7	10
4 アンビシオーネ松本	1-10	2-4	0-5	-	0	0	0	3	3	19	-16

Cグループ	1	2	3	4	勝点	勝	引	敗	得点	失点	得失点
1 SBFCロンドリーナ	-	3-1	3-4	2-2	4	1	1	1	8	7	1
2 熊本国府高校	1-3	-	2-5	2-4	0	0	0	3	5	12	-7
3 正智深谷高校	4-3	5-2	-	2-8	6	2	0	1	7	10	-3
4 東海大静岡翔洋高校	2-2	4-2	8-2	-	7	2	1	0	14	6	8

Dグループ	1	2	3	4	勝点	勝	引	敗	得点	失点	得失点
1 PESCADOLA 町田	-	10-2	9-5	2-0	9	3	0	0	21	7	14
2 不二越工業高校	2-10	-	0-14	4-7	0	0	0	3	6	31	-25
3 PROVA	5-9	14-0	-	2-5	3	1	0	2	21	14	7
4 神戸ハーバー	0-2	7-4	5-2	-	6	2	0	1	12	8	4



3. 各地域リーグの現状（本多）

中塚：第9回大会の振り返りまでいきましたので、次は各リーグがいまどうなっているのかを本多さんからご紹介いただきます。

本多：大会の報告書をご覧ください。その中で各リーグの紹介をさせてもらっています。先ほど中塚さんから話がありましたが、やると言ったけどできていないところや、やってはきたけどうまくいかなかったところなどがあります。

北海道はしっかりとリーグ運営をされ、少しずつ拡大してきています。

東北は、今までは聖和学園が入っていたのですが、今年度はありません。リーグはやるけどチャンピオンズカップには出られませんという連絡がありました。聖和学園自身がリーグに参戦できず、その流れでこちらの大会にも参加できなくなったというようなことだろうと推測しています。

東京都は1部、2部の2部制で、しっかり運営されています。神奈川も1部、2部で運営されています。

千葉県は今年からリーグチャンピオンズカップに参加です。4チームで運営されています。

関東では関東リーグも行われていて、東京、神奈川、埼玉、千葉などの上位チームが出ています。リーグチャンピオンズカップでは都道府県という縛りを設けていないので、関東のリーグチャンピオンも受け入れています。よって関東からは、東京、神奈川、千葉のリーグチャンピオンに加えて関東のリーグチャンピオンも出てくるという形になっています。

富山リーグも14チームです。富山、東京、神奈川、静岡が14チームで運営されており、チーム数が多い地域です。

愛知県は、過去に優勝チームを出したこともある地域ですが、チーム数かなり減っていまは3チームになってしまいました。長野はいま6チームです。静岡は先ほどもありましたが14チーム。

京都は高校サッカー一部勢がしっかり入ってきています。京都橘や久御山など、サッカー一部や、サッカー一部を持っている学校がフットサル部も持っているという状況です。

兵庫はなかなか厳しくなってきました、6チームで運営しています。

熊本は第1回大会から参加しており、今回も10チームでしっかり運営されています。

ここには入っていませんが、大阪は2チームしか出ませんでした。それでもチャンピオンズカップに出場したいとのことでしたが、2チームだとリーグと言うことはできないということで、今回の出場枠はなしとなりました。

それを受けて、いま関西では新しい動きがあり、関西リーグを作ることが進んでいます。京都と兵庫はリーグがあるので、それぞれにひと枠与えます。それ以外に関西リーグにもひと枠出せますよということで、いまやり取りしてもらっているところです。滋賀県、奈良県、和歌山県、そういったところからチーム参加してくると、大阪、京都、兵庫からも参加して、関西を東西に分けてリーグ戦を行うというようなイメージを持っているようです。神戸国際大附属高校の塚田さんという熱心な先生がいて、その方と立命館宇治の小曾根先生の二人が中心になって進めてもらっている状況です。

この大会が始まった10年前は、高校のサッカー一部がこれからできてくるぞという空気だったのですが、一旦その勢いが収まってしまい、フットサル人口全体も縮小傾向にあり厳しい状況です。勢いづかない中で、各地域で頑張ってくれているところです。

その中で、近年一番勢いのあるのは富山で、一気に14チームでリーグ戦ができています。ここも先ほどご紹介があった橘先生のリーダーシップで、高体連のチームもたくさん参加し、活性化されているところです。

中塚：ありがとうございます。ここまでのところでご質問、ご意見、あるいは感想などがあればお願いします。

徳田：大阪は何でこんなに少ないんですか。

中塚：4チームでリーグ戦をやっていたのが、昨年度3チームに減ったんです。本来であればその段階で警告を出すべきでした。「少なくとも5チーム」と言っているのですが、実際は4チームでもリーグとして認め、出場枠を与えていました。大会終了後の報告書掲載用に各リーグ結果を集めた際に3チームでやっていたのがわかり、その段階で警告・指導すべきでしたがフォローができないまま1年が経過します。そして今年度は、3チームのうち1チームがどこかの高校のフットサル同好会が辞退して2チーム

になったということです。さすがに2チームでリーグとは言えません。

岸：フットサルをやっている人がいるけど、まとまってないということですか。

中塚：おそらく20年前の東京と一緒に、フットサルやミニサッカーをやっている高校生は、民間コートとか学校の校庭にいると思うんだけど、それが組織化されていないですね。富山がうまくいっているのは、スケジュール問題を調整して、高体連のサッカー部が、11月の高校選手権予選後にフットサルリーグに出られるようにしているからです。VIENTはフットサルクラブですが、それ以外はみな高体連のサッカー部ですね。先ほども名前が出た、富山中部高校の橋先生。NPOサロン2002の理事でもあるけど、この方がU-18フットサルも高体連サッカー専門部も両方仕切っており、スケジュール調整を全部やってくれています。富山県はそれほど広くなくて、互いに行き来できる範囲なのでできるんですね。だから誰に、いつ、フットサルをやってもらうのかを考えていかないとダメですよ。

徳田：連盟との関係はどうなっているのですか。

中塚：大阪にももちろんフットサル連盟はありますよ。けど、おそらく東京と同じで、フットサル連盟は大人の試合をやるために集まった人たちだから、アンダーカテゴリーのところまで意識が向いていないと思われます。大阪は、Fリーグ下部のシュライカー大阪と、施設を持っているメッセががんばってやっていますが、連盟を仕切っている人たちとは別なんです。だから当事者たち、つまり「遊ぼうと思っている人たち」がやればいいんだけど、連盟に「遊べるようにしてもらおう」としているようで、自分たちで広げていくことをしていないのではないかと思います。やりたい人たちでやればいいんだけど、連盟との関係もあって、なかなかうまくいかないようですね。

徳田：大阪は人口も多いし、もっとちゃんとやっているんだと思っていました。

中塚：そうなんです。だけど富山も熊本もやれているように、地方でもやろうと思ったらできるんです。全国大会に出たいから無理やりやっているところは長続きしないという感じですかね。

徳田：昔は鹿児島にもたくさんチームがありましたよね。

本多：一回だけ、第8回大会に鹿児島のクラブチーム、アズベールが出てきました。あと鹿児島実業がフットサル部を持って、男女両方とも熱心に活動しています。毎年、夏の神戸の大会にも来てくれますが、レベル的には厳しいというところですね。

中塚：チーム数もそんなに多くないということなのかな？

本多：そうですね。

中塚：ビジョンを持って動き出す人がいないと動かないんです。

岸：各地域はどういう方がリーダーになっているのですか。ここだったら学校の先生ですが。

本多：それはもう各地域それぞれですね。高校の先生がずっとしっかりやってくると長続きする傾向がありますけど、チームによっては、自分の息子が高校でフットサルやっていて、息子の活躍の場

を作りたいからリーグを作ったというように、お父さんが頑張るところもあつたりします。クラブの中にはちょっと今年はいいい選手が集まったから、リーグを作って大会に出ていこうというところもあります。こういうのだと長続きしない傾向があると思いますね。

中塚：そうですね。ここまでの情報共有はとても大事なところですよ。各地域の現状を踏まえた上で、10周年で何を取り上げるべきかという話になってくると思うので時間をとりました。

II. 10周年に向けて一何ができるか

中塚：ではここから土谷さん、お願いします。第10回大会へ向けて、当初は何をしようとしていたのか。残念ながら日本財団の助成金は得られなくなったけど、どの部分をどのようにやっていくかという話をしてもらい、全体でのディスカッションと合わせてできればと考えます。

1. 日本財団申請事業の概要ーダメにはなったが… (土谷)

まず日本財団の助成金申請の概略を簡単に説明した後、10周年に向けて私から提案したことについて共有させてもらおうと思います。ガスパールさんが20:30ごろ退席するそうなので、それまでにご意見をもらえればと思っています。

日本財団に申請した内容は次ページのとおりです(12月5日開催のNPOサロン2002理事会2024-5議事録より引用)。

全体的に欲張りすぎた感もあるかと思います。事業目的は主に3つです。日本の偏ったスポーツ観や地域固有の課題を乗り越えて、日常生活、地域社会に根付いたスポーツ環境を整備するということ。いつも中塚さんが話されているようなことです。2つ目は、全国各地でU-18フットサルリーグを整備して、フットサルリーグチャンピオンズカップの認知度を上げ、地位向上につなげること。あるいはそれに共感する人たちとの対話を記録し共有するコンテンツを作ること。3つ目は、地域ごとのU-18フットサルリーグの魅力を発信すること。他地域や他の種目に共有することを目指しています。持続可能な生涯スポーツライフ、歯磨き感覚のスポーツライフを各地に誕生させること。主にこの3つです。

フットサルリーグの現状と課題について記録映像の制作を通して広く社会に伝えていく。それから地域リーグに関わる多様な立場の人を取り上げ、地域でのスポーツの意義や価値を描き出す。そして映像が完成したら上映会などを地域で開催し、地域スポーツの重要性を理解してもらおう。フットサルにかかわらず、さまざまなスポーツのリーグ設立や改善について、何か影響を与えていく。そういう会を「ミーティングキャラバン」と呼んで開催していきたいと。

目的達成に向けて4段階ロケットのイメージで内容を設定しています。1つ目が現地のクラブ、チームなどを交えての事例検討会。「ミーティングキャラバン前期」と呼んでいるものです。今までU-18フットサルリーグチャンピオンズカップに出場経験のあるクラブや、これから力を入れて取り組もうとするクラブに協力してもらい、練習風景や試合風景を取材しに行くのが第1段階です。2段階目は、それを記録映像として編集していくものです。3段階目が、編集した記録映像の試写会およびアフターワークで、これを「ミーティングキャラバン後期」としています。そして4つ目が、それをオンラインで公開していく。そういった流れで申請してみました。ちょっと欲張ったので、どれが本当の目的なのが見えにくかったのかなという反省点はあります。

助成金は得られなかったのですが、撮影の部分ではガスパールさんに関わってもらおうと考えていました。一方で、中塚さんが高校教師をおやめになるので、全国各地の現場を見て回ってもらいたい。このタイミングで、U-18フットサルリーグチャンピオンズカップが10周年を迎えるわけです。

いろんな意味で節目です。このタイミングでサロン2002の“志”である“ゆたかなくらしづくり”

にスポーツが寄与していくところや、いままでU-18フットサルリーグチャンピオンズカップを核にして全国にリーグを広めていこうとしてきた動き、リーグというのは大切なんだよと中塚さんが常に働きかけてきたことを、誰にでも目にしたり手に取ってみられるコンテンツにまとめていきたいということを理事会で提案させてもらったところです。その最初のアクションが、日本財団への申請でドキュメンタリー映画を作ってみようということでした。

残念ながら助成金は得られず、見事にゴールを外してしまったわけですが、

ドキュメンタリー映画はおそらく30分ぐらいの短編映画になると思っていたんですが、それを作るための素材は何時間にも及ぶわけですから。そのためにさまざまな対話や取材がなされるわけですが、ガスパールさんの編集プロセスで、たくさん記録した素材の90%以上は使わないものとなります。そこでカットされた部分も、ドキュメンタリーブックとか記録、文字情報としてアーカイブを残すことで、例えば他のスポーツにも影響を与えるようなものができるんじゃないかなと思います。全国津々浦々でリーグができようしたり、なくなろうとしていたりするわけですけど、他の地域のリアルな運営の姿を知ることができるのも重要なことだと思っています。

リーグを運営しているステークホルダーとか中心的な人たちが中塚さんと対話をすることで実践的な情報が手に入ったり、各地のリーグ運営のために大切な機会じゃないかなと思います。U-18フットサルリーグチャンピオンズカップができて10周年のいまをいったん記録していくことも、アーカイブとしては重要だと思います。

これらのアウトプットは、最終的には地域固有の課題を乗り越える力になったり、偏ったスポーツ観を変えていく、あるいは乗り越えていく力にもなっていくのではないかなと思っています。それが日常生活や地域社会に根付いたスポーツ環境の実現に、概念としてえ影響を与えていくものになっていく。そういうものをサロン2002だから作れるんじゃないかなと思っています。

ちょっと概念的な話だったんですけど。どうですか中塚さん。

中塚：当初やろうとしていたことは予算がつかないのでそのままではできませんが、例えば、先ほども話が出たけど富山や熊本など、うまくいっているところは現地へ行ってみないとどこがうまく行っているのかがわかりません。ここでこのように動けばこんなことができるということを、映像でみえるようにすれば届きやすいんじゃないかなと思います。取材するときに訪問し、仕上がった映像を地元の皆さんに見てもらおう機会をもう一回設けるといのが、ミーティングキャラバン前期・後期と表現していたものです。当初はそんなことを考えていたということです。

予算がつかなくても、10周年に向けて何らかのアクションは起こしたいかなと思っています。

ここから先はざっくばらんに、これからサロン2020がどこで何をしていくのかということも含め、皆さんと自由な意見交換ができればなと考えています。

理事会内では、日本財団の助成が得られなかったことは共有していますが、ではどうするかという議論までたどり着いていません。言いつばなしで構わないので思いついたことをどんどん言ってもらえればと思います。

ついでに言うと、今年度のドキュメンタリー映像はたったの5分ですが、インタビュー映像はもっともっとあるんです。たとえばドキュメンタリーでは使われなかったけど、北海道のチーム、実は稚内のあたりなんです。利尻島の中学を出て、高校は稚内で下宿しながらフットサルをやっている子のインタビュー映像があります。本多さんが聞き手で、いろいろおもしろい話を引き出してくれたんですが、それはほぼカットされています。採用されなかったところにも地域固有のエピソードがいっぱいあります。宇都宮徹彦さんが全国各地の地域リーグを取材して本にしているけど、そのU-18版のようなものができるよと面白いんじゃないかという話も、雑談レベルでは出ています。それが「書籍化」というところにつながっています。ということで、いかがでしょうか。

◆事業名

青少年と地域を育む U-18 フットサルリーグの記録

◆事業目的

日本のスポーツ観や地域課題を克服し、U-18 フットサルリーグの全国大会地位向上を目指し対話を記録・共有する取り組み。
U-18 リーグの普及には学校中心の環境や人材不足が課題。地域間連携で持続可能なスポーツ文化を目指す。

◆事業目標

- ・地域リーグでの現地クラブ事例検討会「ミーティングキャラバン前期」
- ・第 10 回 U-18FLCC の記録映像撮影
- ・上映イベントおよびアフタートーク「ミーティングキャラバン後期」の実施、記録映像のオンライン公開

◆事業内容

- ①地域リーグのクラブ、試合取材、事例検討会、記録映像撮影(ミーティングキャラバン前期)
時期:2025年6月~2026年11月(計3回)
場所:熊本県熊本市、富山県富山市、東京都全域
対象:300名(高校生、クラブ関係者、選手、教育関係者、プロ選手、保護者、地域の支援者)
- ②第10回 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップの取材および記録映像撮影
時期:2026年1月9日~2026年1月13日
場所:長野県千曲市
対象:400人(信州千曲観光局職員、戸倉上山田温泉関係者、大会関係者、選手、クラブ関係者、千曲市民)
- ③記録映像の編集と試写会イベントおよびアフタートークの実施(ミーティングキャラバン後期)
実施形態:イベント・セミナー
時期:2026年3月中旬以降(計1回)
場所:長野県千曲市、オンライン
- ④記録映像のオンライン公開
実施形態:資料等制作・配布
時期:2026年3月末
場所:インターネット(サロン2002ホームページよりリンク予定)
対象:年間視聴数500人(長野県東北信地域市民、大会関係者、スポーツ関係者、教育関係者)。誰でも視聴可。

◆日本財団からの質問

12/2 までの回答が求められ、理事会前にメール回覧で回答案について協議・作成した。ポイントは以下の通り。

- ・申請事業についてのこれまでの活動実績
月例サロン、公開シンポジウム等で、定期的な情報発信に努めた。ホームページにも掲載。
10周年を迎える U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップを主催してきた。
- ・解決手段による達成目標
地域事例紹介から事例共有、各地域の課題解決に向けた仲間づくり
「できない」から「できる」の意識改革、地域主体で進めることができる
- ・同事業の発展計画
サロン事業内の出張サロンと併せ、ミーティングキャラバンの活動枠組みを維持拡充

◆収支予算について(概要)

- ・予算内訳 362万円
旅費交通費(ミーティングキャラバンの移動、宿、レンタカー、など)
事業管理費(チラシ作成、製本、モデレータ、配信スタッフ費、など)
委託費(撮影スタッフと機材費など)
- ・助成金申請額 80%(289万円) ⇒ これにより約73万円がサロン2002の自己負担額となる見込み。

鈴木：話が空中戦のようになっているので地上に降ろしたいと思います。映像、書籍といった媒体はさておき、それを見る人は誰で、それを見たら、見る前と後でどう変わることを狙っているのでしょうか。

例えば、見た人がフットサルリーグ、大会に参加してみたいと思ってもらえるようにこれを作るのか。しかし先ほど出たお話で「富山がうまくいっているので参考になる」というのは、運営者向けのお話ですよね。プレーヤー向けか、運営者向けか、対象や目的が違くと作りが全然違ってきます。映像なのか本なのかは、誰に向けて発信するのかで決めればいいですし、お金がつけられるかどうかで決めればいい。あるいは原資がこれだけだったら、その中でやれることに努力を傾ければいい。

5分間のプロモーション映像はどういう狙いから作ったのですか？

中塚：あれはですね、まず知ってもらおうというのが最初ですね。我々は力を注いでやっているけど、大会そのものが知られていない。

鈴木：認知向上ということであればプロモーションの話だと思います。冒頭、あの映像があまり活用されていないというお話が出ました。映像制作にかかった費用で10万人よりも100万人に見てもらえる方が費用対効果が高いわけですから、すそ野を広げるために映像をYouTube以外でも活用する道があるかどうか。それらも併せて考えてから作らないと。お金があるから作るとか、こういうものがあるといいなと思うから作るという、作るだけになって、結局お金の無駄が大きいんです。これは、どの制作物にも共通する原則でして、ターゲットを明確にした方が失敗が少ないと思います。釈迦に説法で、こんなことを僕が言う話じゃないけれど、見てもらう対象や目的をまず言語化するべきだと思います。皆さんの議論のためにも。

中塚：そうですね。そのあたりが整理できないまま、いまこの場も空中戦になりかかっていると思うし、申請するときもそこが、最終的にこれだっていうところに落ち着かないままいつってしまった感がありますね。それが、いろんなことを盛り込み過ぎたということにつながったかもしれません。

鈴木：例えば冒頭おっしゃった、昼休みにフットサルやってる愛好家が多いという話。チームに所属し、こういう大会に参加することが目標になると、個人のスキルも上達してチーム力も上がる。そうすると、昼休みにボールを蹴っていたときより楽しい。負ければ悔しいけれど、うまくなると楽しい、勝てると楽しい。そこがプレーヤーのベネフィットですよね。参加する18歳以下の人たちの幸せな状態をもっと描いて、そういう人たちに訴求しようって決めたら、映像の作りも、それを流すチャンネルも、時間も、決まってくると思います。それは地域ごとに文化、サステナブルなものを作っていこうという「運営者向け」のメディアと視点が全然違う。そこだと思います。あるいは、アーカイブとして使うんだったら、それなりの正確な記録も含めていつでも見られるものにするとか。どれか1つに絞り込む必要はないかもしれないけれど、主なところは狙った方がいいと思います。

中塚：土谷さん、ガスパールさん、どうですか。

ガスパール：おっしゃる通りだと思うんです。記録に関しては、要するにいつでもできることですし、必ずしも10周年の節目にしないといけないことでもないと思うんです。いまおっしゃった通り、リーグ運営の話は、運営する方とか、フットサルのリーグにもともと関わっている人しか見ないと思うんですよね。そういうこともあって、プロモーション映像ではそういう部分はカットしたというか、使っても一般の人には背景がわからなすぎて把握しにくいと思うんですよ。私でも最初はちょっと把握しにくいところもありましたので。私自身、フットサルやフットサルリーグに熟知しているわけではありませぬので。なので、記録やドキュメンタリーとプロモーション映像を撮るのは、別で考

えた方がいいと思うんです。というのが基本にあると思うんです。記録は記録で、常時にやればいいと思うんです。映像は割とやりやすいので、記録の媒体としては悪くないと思うんです。音だけでもいいですし、それを後で文字化することも、常時にやってもいいですし。例えば中塚さんが地方のリーグに行かれて、そこで話を録音する。それだけでも記録にはなるわけです。ドキュメンタリーになると、もうちょっと広く、いろんな人に見てもらえるようなコンテンツにした方がやりがいがあるかなと私は思っています。誰を対象にするかというのは、もちろん考えてもいいんですが、基本的には僕も映画を作る時はいつも聞かれるんですが、誰を対象にするかということ、「誰でも」ってことになるでしょう。誰でも見て、面白みを見いだすことができるコンテンツを私は作りたいので、それは作った方がまあ面白いかなと私は思います。

なので、予算がつかないというのが非常に残念ですが、たぶん選択肢は2つしかないと思います。1つは、別のルートでスポンサーなり、違うところで助成金を探し続けること。もう1つは、ドキュメンタリー映像の規模を縮小すること。どっちかですね。または同時に両方やるかですね。

土谷さんと予算を組んだときに、一番お金がかかるのは移動と人件費ですね。なので、例えば移動なしで、その代わり長野の大会に集中して、今年撮ったものよりもうちょっと長めのものを作るとか。そういうオプションを視野に入れてもいいんじゃないかなと思います。

私から言えるのはそういうところですね。

中塚：ありがとうございます。

岸：岸と申します。私も結構ドキュメンタリー映画が好きで、最近みたものだと「小学校」っていう、ある一つの小学校の4月からその年が終わるまで、あるクラスを撮り続けたものです。子どもたちと先生との関わりや、子どもの成長みたいなのを追ったドキュメンタリーが、銀座かどこかの映画館しかやってない感じでやってたんです。これが非常に面白くて、どちらかというところ、日本よりも海外で、日本の小学校、日本の教育ってこうなんだみたいなのところを受けていました。

中塚：その話、聞いたことがありますね。

岸：はい。いろんな国で取り上げられたりしたようなんです。

リーグ戦にまつわる「人」みたいなのところに焦点を当てて、それを見た人がリーグ戦の文化を知ったりすることが目的なのか、あるいはもう少し自分もフットサルやってみよう、みたいなイメージを持つところにつなげていくのか、あるいはそれこそその小学校じゃないですけど、日本のスポーツ文化を海外輸出するようなのところも視野に入ってくるのか。どういうことを目的にするのかなっていうところが気になりました。

小針：自分としてはもっともっと子どもたちを巻き込んでいいんじゃないかなと思っています。発信者として一番手助けとなるのは子どもたち自身です。高校生はXだったりインスタグラムを皆が使っていて、「今日こういう大会があった」「なんか楽しい」を発信してくれるだけでも違うと思います。自分はグルメとか全然わからないんですけど、「ハッシュタグ恵比寿グルメ」で調べるとたくさん出てきます。そういう延長線上で、例えば「ハッシュタグサロン2002 フットサル」みたいな形で発信すれば、周りの子どもや保護者がみてくれて、興味ある人はもう少し調べてみようというサイトに飛んでくれる。そこで「こんないいものがある」と気づいてもらえると思います。

例えばこの会に、出場チームの主将が参加するようにして、次の企画について意見を募るのもよいと思います。意見が出てくるかはわかりませんが、そういうのがあったらいいなと思います。お金の面でも、子どもたちがクラウドファンディングで訴えかける方が、我々大人が言うよりいいかもし

れません。できるかできないか我々大人の考えもありますが、そのところを踏まえつつ、もっと子どもたちを巻き込みたいと考えます。

本郷：少し遅れてきたので、その前に話があったら繰り返しになるかもしれませんが、映像を作るにあたって、鈴木さんのお話にあった目的とかターゲットについてです。確かに理事会ではあまり明確に目的や対象を想定はされていなかったと思います。僕が理事会で話したのは、岸さんやガスパールさんがおっしゃったのと近いと思いますが、サロン2002では月例サロンや公開シンポジウムをまとめて報告書や冊子にしていますけど、外部に発信するためということもありますが、冊子を読んでいる人は内輪の人が多くて、なかなか外に広がっていきません。こういう話をたぶん何年もしてきています。とは言え、いまこういうことをやってるんだということを中心に記録として残しておくのは大事なことだと思います。その際、内部の人が、我々がやってることはすごいんですよというので作るのではなく、外部の目で、例えばガスパールさんの目で見てサロン2002がやっていることを記録してもらうことは重要だと。アーカイブに近いと思うのですが、記録を残すという目的があり、それなりの質のものが出来上がるだろうと。それを見た人の意識がどのように変わるかまでは想像してないんですけど、そういうものを作るということ自体に意味があると考えます。いまの時代の高校生の記録となるので、いまの高校生の日常などもあわせて撮れるのではないかなと思います。フットサルを題材として撮っているけど、この時代の記録としても意義があるのではないのでしょうか。

中塚：理事会の中では本郷さんや関さんがそういう立場で話をしてくれました。つまり、我々の側からメッセージを発信していくことも大事だけど、一方で第三者の目で見たらどのように表現してもらえるのだろうか、今回でいうとガスパールさんの目でどのように記録してもらえるのかということですね。いまの客観的な記録として、評価されるようなものになるんじゃないかということですね。

岸：プロモーション映画を作る中でガスパールさんからみてこんなところが面白いなと思われたところはどんなポイントですか。

中塚：ガスパールさんどうでしょう。そろそろ退出しないといけない時間かとも思いますが。

ガスパール：あと10分ぐらい大丈夫です。僕の観点からというと、リーグのいろんな動きとかサロンの動きに徹底取材的な、だから土谷さんが話していたように、ドキュメンタリーっていうのが、撮影するものと編集で使うものの割合は、皆さんが思ってるより半端なく捨てる部分が多いんです。なので、僕がサロンに対しては第三者ではありますが、第三者だけじゃなくても何かを見出すというか、正しい観点を見出すのは、そんなに簡単なことではありません。時間も労力も、私側でもサロン側でも、簡単に聞こえてそれなりの規模の企画になると思うんですよね。

かといって、プロモーションビデオは、私としても正直そこまで興味がないところです。いまプロモーションビデオは、何にしてもたくさんあるじゃないですか。みんなインターネットで、見るように見てないじゃないですか。ちょっと流してみてるようなプロモーションビデオを作っても、あまり意味がないと思うんです。今年作ったものも、プロモーションビデオではありますけれど、一般的なプロモーションビデオでもないと思います。できるだけサロン2002の理念を、サロンがやろうとしていることを映像で表せることができれば、それが一番いいんじゃないかなと思うんです。だから、もうちょっと長いバージョンにしても、同じような目的で作れば、まああと映像をどう活用していくかというのも、100%の正解は知りませんが、もちろんYouTubeで流すだけではなくなってしまったりもするんですが、リーグで上映してもらったり、各地方で生かす方法を考えた方がいいんじゃないかなと思うんですね。

ちゃんとした「観察ドキュメンタリー」みたいなものを取ろうと思えば、意外に時間かかるし。最終的に目的を果たすかどうかは私にはちょっとわからないですね。徹底的に取材しないといけないので。いまの時点では言いにくいところですよ。

だから、さっき言ったように、記録は常時にやった方がいいと思うんですね。記録か観察だけでものを作るというより、ちゃんと企画して、例えば大会の前後でどうなったのか。30分の、ちょっと長めのドキュメンタリーを撮る。伝えるのは、その大会で何をしようとしているのかということですよ。メッセージ性をこう伝えれば、それが一番いいと思うんですよ。

見る人は必ずしも、私もその大会に参加しようとなるものじゃなくて、そこに集まる人間がどういう体験をして、何でやっているのかというのが一番重要じゃないかなと思うんです。

この大会に来てもらおう、千曲に来てもらおう、もっとリーグを増やしていこうという目的でしたら、それはプロモーションの方に行った方がいいんです。ドキュメンタリーは、どちらかというところ「自分じゃない人間の体験を共感する」ようなものだと思うんです。それを目的に、私は普段作ります。

中塚：「自分じゃない人間の体験を共感する」っていいですね。

ガスパール：そうですか（笑）。まあ、映画ってね、そうですよね。

中塚：全国各地で、気候も違えば人口も違えば全然違うところで、だけど、フットサルで遊べる環境を作ろうよってなった時に、どんなやり方があるのかなっていうのを、いくつかの地域をピックアップして、そこで格闘している運営者かもしれないしプレーヤーかもしれないし、やっぱり人物ですよ。個々の人物を取り上げて、その人が何をしたのかということのを他の地域でも共有できるかというかなと。

だからもしかすると、鈴木さんが最初に言ってくれたことと言うと、私自身が思っているのは、プレーヤーよりも運営する側に重きが置かれているのかもしれないですね。問題意識がそこにあるから、「もっとしっかりせいや」って思うし。

同時に思うのは、小針さんが言われたこととも関係するけど、「高校生もっとしっかりせいや」ってことです。大人にやってもらわんじゃなくて、「遊びたいの君たちやろ」と。そういった原点に戻るところも、ドキュメンタリーとして取り上げられるとなお面白いなと思います。

それは高校の教師をずっとやってきた立場としてでもあるんです。

小松：同じ高校の教員で美術を担当している立場から。こんな発言をしたら怒られるかもしれませんが、高等学校体育連盟、高体連を解体できないかなと思うんですけど。それに代わる何か、地域の自治体とか運営とか、そういうあり方を探っていくのであれば大変に興味があります。

どうしてそれがうまくいってるのかという事例を作ることができれば。部活動も地域に移行すると言っても、その事例がなかなかうまくいきませんし。

私はあさってのボート部の引率が、急きょ予定が立たずほかの先生に代わっていただくという、大変心苦しいやり取りをしてまして。さらに来年度はボート部ではなく弓道部の顧問になり、まったくわからないんです。あの弓道部にも高体連組織がありまして、それとは別に東京都弓道連盟という昇段審査会をする組織がある。そちらでも会員登録をし、会員番号がないと高体連で登録できず、試合に出られませんといった構造になっているんです。それを全く知らない美術の教員がやらないといけません。選手はやりたくて仕方がないんですけど。それが業務としてあります。私にとってはすごく外に出たくなるんです。結構根幹に揺るがされる思いを持つんですね。顧問がどうなるかみたいな議論が出るときに。その部分に関してはすごく自分事として切実さがあります。一方で私が2歳と6歳の

子供を抱えているので、この子どもたちがサッカーやフットサルやるときに、いまはバレエとか習い事をやってますけれども、活躍する場を担保したいという、先ほどの土谷さんのお話にもありましたけども。そのところと両立できたらいいなと。その先行事例というか、そこを切り開いていくのがサロン2002の役目として期待したいし、やっていけたらと思っています。

小池：スペインのバルセロナに友人がいてこの前も行ってきたんですけど、日本人は全てにおいて完璧を求めてしまう。女子のカタルーニャ州のU19トップカテゴリーの試合は副審がいません。育成年代ではマンパワーが足りないのでもって没収試合が結構あります。人が来ない。集まって来ない。それでもリーグは運営するわけですね。いろんな変遷があって、たぶん学校の先生って現場にいらっしゃるから、もちろんレギュレーションはすごく大事ですけど、完璧性を求めてしまうと、それについていけない人がたくさん出てくる。僕もそうです。日本人がやるものは、高校サッカーにしる、高校野球にしる、大人が作ったストーリーなんですね。すべて。そこに商業が紐付いている。ストーリーが完璧で、感動的かつ、ビジネスとしても興行としても成功してきた。

では「サロンやろうとしているフットサルはどこを目指すんですか？」と尋ねたい。商業的成功を目指すんですか。教育的に意義として大会を開催するのですか？それとも両方を追求するのですか？これはスペインの例ですけど、スペインの育成年代は、全国規模のカテゴリーがないんですよ。マドリールやバルサがありながら。なぜかを考えたんですけど、育成って金にならないんです。だからやらない。はっきりしています。無理に大会を大きくやろうとすると費用がかさみ、赤字になったり、個人の持ち出しが多くなり、大会の運営の継続が難しくなってしまう。

僕は去年あたりから日本全国を回っています。20年以上前でしょうか？中塚先生がDUOリーグをはじめたことはすごいいいと思いました。東京都内で始めたものですが、この10年を見ていると、地方でもリーグ戦はやっているんです。福島では（浜通り、中通り、会津の）3つに地域が分かれています。サッカーが盛んになっています。フットサルも盛んです。なぜかという与会津では、冬になると雪が降り、屋外でサッカーができない。冬のスポーツはフットサルです。とても盛んで、そしてうまいです。でも福島はフットサルの全国大会には出ていないようですね。会津のサッカー協会が大会に出られるほど組織化されていない、または情報が行き渡っていないのではないのでしょうか。

北海道では十勝あたりでサッカーが盛んです。中塚先生がやってきたことを、（既存の組織をより組織化するために）地方の人たちと意見を交わす機会を作るとは面白いなと思っています。

中塚：今日は言いつばなしで構わないので、残り十分ぐらい、言いつばなしでもらいたいです。話の発端はU-18フットサルリーグチャンピオンズカップの10周年だったけど、話を聞いていると、もっと広げて、日本のスポーツ環境を根底から見直す機会にしてもいいんじゃないか、フットサルの取材じゃなくてもいいかもしれない、10周年にこだわらないのもありかなと思いつついます。もちろんタイミングとしては、部活動改革がぐいぐい進んでいるわけで、そこに一石投じるチャンスかなという気はいたします。いかがでしょうか。

嶋崎：本質的な議論が為されているときにくだらない質問ですみませんが、申請した予算規模はどれぐらいでしょうか。

土谷：250万円ぐらいだったと思います。

嶋崎：それがわかると、集めるときの目安になると思ってお聞きしました。

中塚：日本財団もtotoと同じで5分の4の助成です。それぐらいの持ち出しを覚悟しないとイケない。

嶋崎：部活動改革に一石投じるのも一つありとは思いますが、それよりもフットサルの大会を中心におもしろいことを発信できるとよいと、お聞きしていた感じました。もちろん目的やターゲットを絞れるならいいなあとは思いますが、やれるんだったらいいなあと、単純な感想ですが思いました。やはりサロンで長年やってきたことが一つのかたちになっているのは確かだと思うので、そういうのをまとめていくのはありかなと思いました。感想です。

鈴木：プロモーションという言葉を使いましたが、広告・宣伝のようなイメージを持たれたとしたら訂正しますね。もちろんそういう意味ではなくて、多くの人に知ってもらう、何らかの目的を設定するという意味です。僕も岸さんがおっしゃった小学生の日常とか、本郷さんがおっしゃった高校生の日常のあるがままみたいなことは大好きです。そういう素材を出して、それを感じる人たちの反応を期待して、映像には大きな力があるのでごく期待できると思います。そういう素材的なもの、日常のあるがままを描くことによって、そこに「サロン魂」がちゃんと出てるっていうようなものになると「らしいもの」になると思います。

岸さんのおっしゃるような小学生の映画は面白いと、僕も思います。けど、見終わって、うん、そうなんだって思って、何か他のことをやってるうちに忘れちゃうのでは何にもならない。そうじゃなく、見た人が何かしらの行動を起こしたり、強いエモーションに突き動かされるようなものがあると、なお良いと思います。10人がこれを見たら10人すべてにそういう行動を求めるのは難しいと思いますけど、1人でも2人でも、そういう行動喚起ができればいいですね。そういう企画・制作のスタンスを決めないと、250万円が仮に使えとしても、無駄が出てしまう懸念がある。おわかりいただけるでしょうか。

中塚：よくわかります。

岸：10年やってきたこの大会が、「いいよね」だけで終わらないほうがいいのかと思いますね。サロンの内側の人たちはそれでいいのかもしれませんが、広げるためには、それこそ日本の部活動ってこうだよねというディスカッションが始まったり、教育とスポーツって結びつくよねみたいなことが大事だと思いますね。

鈴木：10代の若者のために、メシのタネにならないことを一生懸命やってきた本多さんっていう人がいるって、中塚先生がおっしゃるような運営者ターゲットには魅力ですね。何でこの人はこんなことやってるの、みたいなことって素敵に描けると思いますね。また、例えば毎回参加しているチームが、何回出ても全然勝てない。でも出続けている。そういうチームの選手にも焦点を当てたいですね。勝てなくても、出続ける理由があるのか、その理由が選手の日常からわかるとか、家族との話から描けるとか。何かそういう内容はすごく可能性があると思います。横浜フットボール映画祭に出品するといいんじゃないでしょうか。短編作品の賞を取るとね、話題になりますよ。

本多：僕自身はゼロからこの大会を作ってきて、自分なりにずっと自問自答しながら、俺は何やってるんやろかと思いつつやり続けてるわけなんです。そもそも野球とかサッカーとかは、大会の体系が整っていて、リーグ戦があるのは当たり前、高体連や甲子園があるのは当たり前なんですけど、フットサルはこの10年かけて、それをゼロからいま作っているわけです。では何で、この大会はあるべきなんだろうか、というところを僕は考えていて、そのことを描いてみたい、それを取り上げてみたいという思いがあります。ではなぜそれやってるのかというと、サロンがやるからには、大会があることで、みんなのくらしがゆたかになる。そのためにやったはずなんですよね。だから、大会

がそもそもゼロからわき起こってくる。自分の息子が高校生でフットサルやってるからというところもあるだろうし、サッカーで人が集まらないからフットサルってのもあるだろうし。他の競技では当たり前前のものがゼロから起こってくる。どのように起こってきて、それが10年経つとどうなっていくのかみたいなことを、サロンとして残す価値があるのかなという気がしています。

小針：メッセージ性はすごく重要だと思います、この10年間の軌跡であったり、子どもたちの描写、たぶんそこが中心になると思うんですけど、先ほど小松先生が言われた言葉がすごく重く感じました。部活ひとつで出たくなくなるとおっしゃっていた言葉です。自分は部活に育てられてきたので、恩恵を受けてきた立場なんですけど、これからは持続感を持って考えると、メッセージも含みつつ、サロン2002として発信するものだけでなく、理事長の中塚先生、高校教師のレジェンドとも言える方からのメッセージを、気持ちを込めて発信してほしいと思います。

石原：合ってるどうかはわからないんですけど、昔聞いたブラジルの話です。みんなが集まったとき、「今日はサロンするか、グラウンド行くか？」って言うらしいんです。グラウンドというのはサッカーですね。それだけ人数が集まって。でもちょっと人が少ないときは、遊びとしてのサロンです。僕が小さいときはミニサッカー。それがいつの間にかフットサルになった。フットサルって何だろうずっと思っていたんですが、その友人に、ブラジルではサロンっていうのと、グラウンドっていうのがあるんだよって教えてもらいました。いまのサロンに参加させてもらって、遊び場だなと思います。遊ぶことって一番楽しいし頭も使うし、そういう仲間がいる。私も長く生きてますが、若い者の集まりに参加する年寄りもいる。サポートのおばあちゃんやおじいちゃんもいる。孫が好きだから。さっきの橋に。ツリーの中の飾りに、我々もなれば良いと思っています。

中塚：いい時間になってきました。そろそろお開きにしようと思います。今日は言いたいことを言いう場でした。ありがとうございます。個人的には4月から、これまでよりも時間的にゆとりがあるので、やりたいことをやっていきたいと思っています。

土谷さん、全体を通して最後に、今後へ向けて一言、ふた言いただければ。

土谷：これまで月例サロンの中で具体的な案件について話していく機会がなかったこともあり、今日はこういう企画を理事として提案させていただきました。さまざまな意見が活発に出てくるのがサロンではないかと思っています。実際に作る作らないについて、投げた球の責任は自分でとらなければならないけど、10周年だから作らねばならないということじゃなくていいんだなということも今日改めて思いました。ただやはり、遊ぶというのは、目的を持ってしまうと遊べなくなっちゃうというのもあります。あるいはこういった場で遊びっぱなしでいいのか。回収するときは回収し、目的を持った姿として立ち現れる時期もあるということも思った次第です。

遊びながら、メタ視点で、ターゲットや目的を持たなければならないんじゃないかなとも思いました。それがサロン2002のこれからの集客や会員集めにもつながっていくのだろうなと。そして中塚さんのこれからのあゆみにももつながるのではないかと思いました。以上です。お返しします

中塚：サロンファミリーを増やしていきましょうね。

では今日のこと頃はこれでおしまいにしたいと思います。2次会会場は茗荷谷駅前のはなの舞です。オンラインの方と一緒に飲めないけど、また別の機会にやりましょう。

岸：この会場が最後だということと、中塚先生が38年の高校教師が最後ということで、有志で…

中塚：何と…、すごい…

<サロン2002有志より花束とプレゼント贈呈があった。最後に参加者全員で写真（撮影は小針氏）>

